



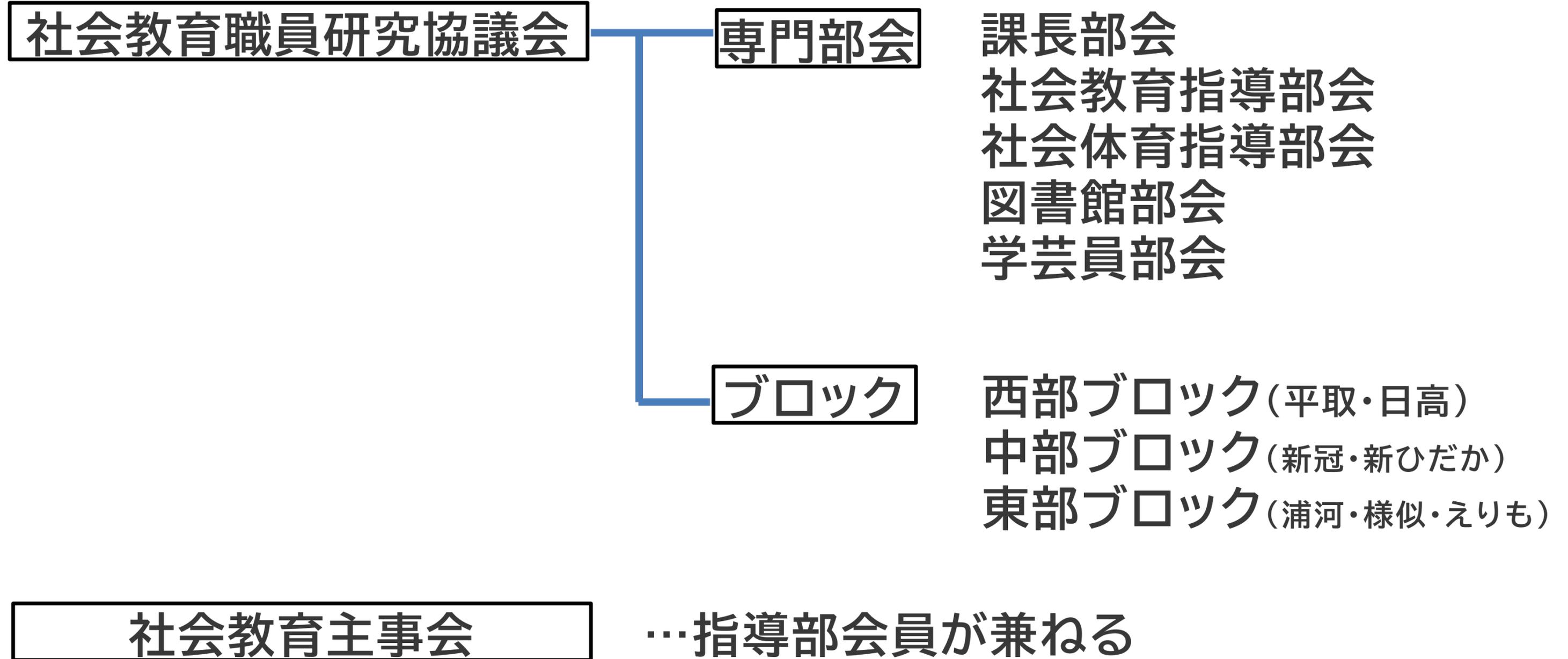
日高管内

# 障がいのあるなしに関わらず 共生する社会づくり

～ 青少年体験活動推進事業「ひだか未来塾」の実践～

様似町教育委員会 新出拓海

# 日高管内の研究の組織体制



# 「ひだか未来塾」とは？

---

管内の中学生と高校生を対象とした研修事業

## ●目的

生徒たちが他町の参加者と交流しながら、地域課題への興味関心を高めるとともに、その課題に向けた協議などを通して、ボランティア活動などの地域事業に主体的に参画する意欲や態度を身に付ける

## 運営体制

# 日高管内青少年体験活動推進事業「ひだか未来塾」 (平成31年度～)

令和7年度

### 企画・運営

東部ブロック  
浦河・様似・えりも

### 案内・集約

中部ブロック  
新冠・新ひだか

### 記録・報告

西部ブロック  
平取・日高

役割分担は、西部・中部・東部の3ブロックでローテーションし、  
全町が運営に参画している

今年度の  
テーマ

## 「障がいのあるなしに関わらず共生する社会づくり」

---

- ・障がいのある人と関わることが少ない

中高生向けの研修だと  
難しい内容？

## 難しいテーマを届けるための工夫

### ●心理的ハードルを下げる

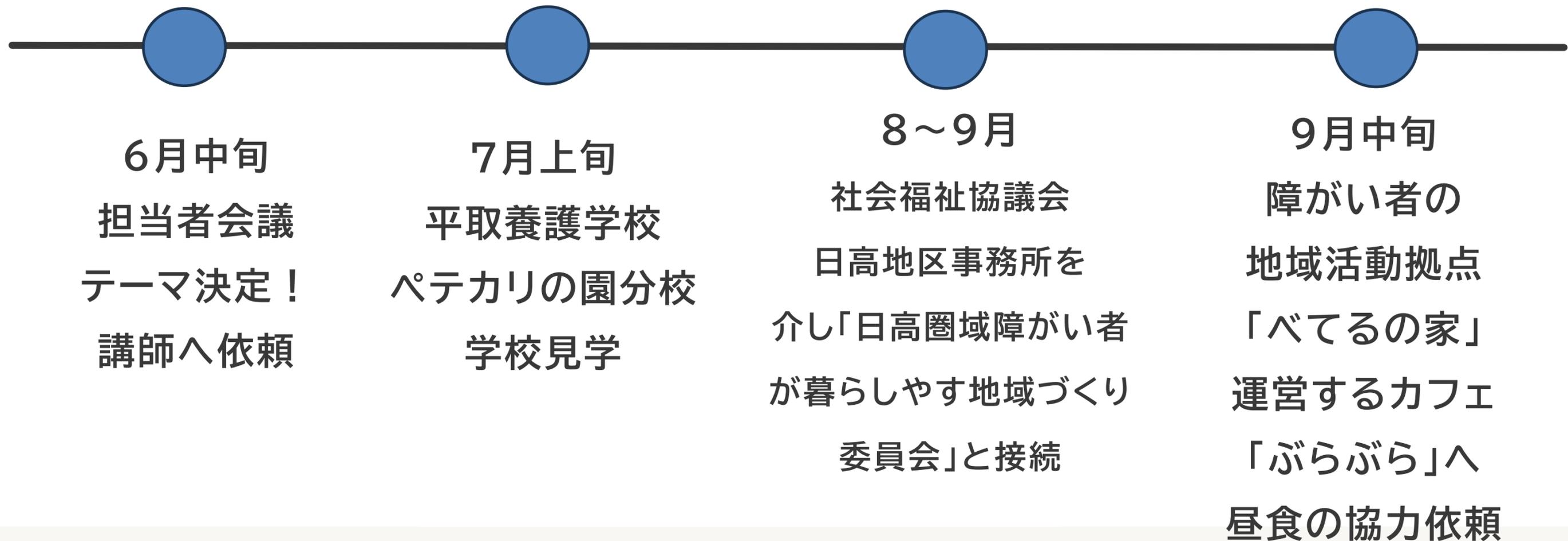
- ・会場内にBGMを流す
- ・午後のワークショップにお菓子を用意
- ・難しい言葉を徹底的にかみ砕く

### ●「実感」を設計する

- ・体験活動を多めに設定
- ・テーマと関係の深い団体との連携



# 関係団体との連携のプロセス



# ひだか未来塾当日スケジュール

	10:00	10:05	10:15		11:30		12:00	13:00		14:50
受付 9:30~	開 会 式	ア イ ス ブ レ イ ク		講 話		体 験 活 動	昼 食		ワ ー ク シ ョ ッ プ	閉 会 式

- 講 話…「特別支援学校の教育活動の目指すもの」
- 体 験 活 動…「障がい者の立場から世界をみる」
- ワークショップ…「共生社会の実現を目指して」

— 午前中は —

# 共生社会の理解のため 社会福祉の世界に触れてきました

- 平取養護学校のこと
- 障がい者目線での体験
- 実際に当事者の方が社会で働く様子を見学
- 当事者・支援者の実体験

色々な立場からのお話を聞いて  
たくさんのキーワードやヒントがありましたね



# ワークショップの目的

本日学んだ「障がい」についての課題発見から解決までよりリアルなシチュエーションをグループで想像してみましよう

## ① 課題発見

- ・日常で自分の周りにどんな問題があるかな？
- ・当事者の目線でどんなことに困るかな？

## ② シチュエーションを想像

- ・困りごとをはどんな時間・場所・状況で起きるかな？
- ・当事者目線でどんなことが起きているかな？

## ③ 課題の解決

- ・どんな人、どんな物、どんな工夫が必要かな？
- ・自分にはどんなことができるかな？

# ワークショップのグループ

ファシリテーター1名

助言者1名

参加者(中・高校生)4~5名

○助言者： 日高圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会の皆さん  
障がい者が受けた差別や虐待などの解決についての話し合い、人や団体、施設などを繋ぐ、相談を受けるなど、障がい者の方たちが地域で暮らしやすい社会のために活動する団体。

委員の皆さんは社会福祉関係の施設や役場などで、実際に働いていますので、たくさん現場でのお話を聞いてみましょう。

# ワークショップの流れ

## 前半30分「困りごとを探そう」

- ・午前中の感想や大事だと思ったことをグループで発表・共有
- ・課題を発見(当事者の困りごと)
- ・課題の選択



# 発表

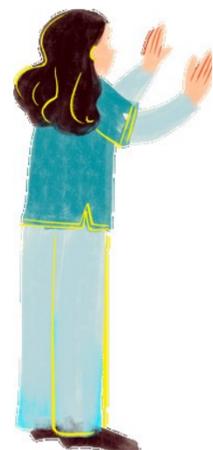
## 発表準備 10分



## 後半30分「皆が幸せになるには？」

- ・選択した課題について、よりリアルで具体的な場面を想像してみよう
- ・課題の解決方法を考えてみる
- ・自分にできることはなんだろう？

## 5分休憩



成果

アンケートの結果:「理解」

障がいを抱えながらも働く姿を見て、**自分自身が勇気**をもらった

カフェばらばらで統合失調症のかたから直接話を聞いたことで、授業などの座学より深く、**リアルに理解する**ことができた

「利き手・逆利き手」の話の  
ように、自分が**無意識の**  
**うちに気づけてない**  
**不便さ**が世の中には  
たくさんあると知った

点字ブロックやスロープの  
重要性、公共交通機関におけ  
る車イスの方への**工夫の**  
**必要性を実感した**

障がいある方が日常生活で  
**困っていることが、実は**  
**自分の生活の課題解決**  
にもつながっていると感じた

「障がいがあるから助けてあげなきゃ」という思い込みが、逆に**相手への負担や差別** (線引き)に**繋がる可能性**があると気づいた

大切なのは障がいの有無ではなく、1人の人間として**「相手を思いやる」**ことを考えるようになった

「特別扱い」ではなく、**誰もが使いやすい**「バリアフリー」の**考え方**が大切だと感じた

成果

アンケートの結果:「全体の雰囲気について」

「お菓子を食べながら」と  
**リラックスした** 雰囲気  
のおかげで、話合いが円滑に  
進んだ

ファシリテーターや地域づくり  
委員会が話しやすく、**意見を  
優しく引き出して  
くれた**のがよかった

「最初は学校に言われて来た」  
という生徒も、最終的には  
**「参加してよかった」**  
と感じる内容だった

## ①課題をキャッチする力

- ・現場の声、地域課題をキャッチする力がついている

## ②強固なネットワーク

- ・各ブロック・部会・主事会を通じた密な連絡体制の構築

## ③つながりづくり

- ・講師や関係団体とのつながりを管内職員で共有することができている

## ①物理的な距離

- ・遠い町では片道2時間の移動

## ②関心

- ・テーマに対し、どう中高生に興味関心を持たせるか  
→参加者の確保

## ③運営の共有

- ・企画者とファシリテーター間でのビジョン共有の難しさ

## ①学校との連携

- ・継続的な「ひだか未来塾」の取り組みが先生方の関心を引き、教員自身も研修に本事業にしてくれるようになった

## ②SDGsへの意識向上

- ・「誰もが取り残されない社会」への学びが、帰宅後や学校での自発的な勉強を始めるきっかけとなったと思われる  
(感想より)

ご清聴ありがとうございました

---

